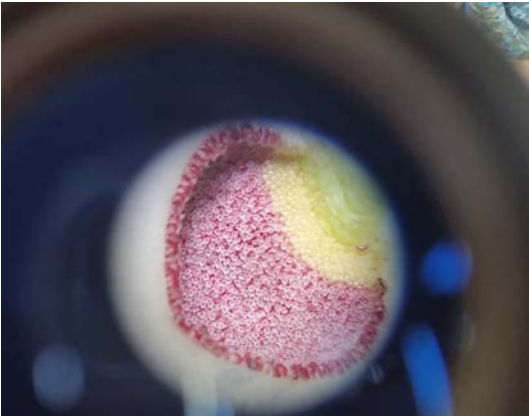


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 5 月 31 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	中村泉

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
鹿児島県 屋久島	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
屋久島実習	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 28 年 5 月 21 日 ~ 平成 28 年 5 月 27 日 (7日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学 屋久島観察ステーション	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
本実習はサル班、シカ班、イチジク班に分かれて調査が進められ、私はイチジク班に属しイチジクとイチジクコバチの調査を行った。 5/21 屋久島に集合 5/22 - 24 調査 5/25 調査 ヤクスギランド 5/26 発表会 5/27 白谷雲水峡 解散 屋久島には 7 種のイチジク属植物が存在する。イチジクとその送粉者であるイチジクコバチは 1 対 1 の共生関係にあるとされる。本調査では屋久島に生息するイチジク(葉と果囊)をできるだけ多く収集し、さらにイチジクコバチや寄生者等、イチジクの果囊の中にいる昆虫を集めた。本実習で集められたこれらの生材料を用い、翌週からのゲノム実習で系統解析を行うこととなっている。 実習では 5 種のイチジクからサンプリングをすることができた。さらに果囊の色や硬さ、直径、果囊の状態 (Stage)、昆虫の有無等を記録した 実習全体を通して、外国人メンバーとの英語でのコミュニケーションや発表準備、ディスカッションに苦勞した。特に自分の意見を英語で正確に伝えることはとても難しかった。 また実習期間中、個人的に屋久島の植物を覚えるよう務めた。これまで植物を覚えたことはなく苦戦したが、屋久島の環境をより理解することができたように思う。実際分かるようになった植物は多くはないが、今後の私自身の屋久島での調査に活かしていきたい。	
	
写真 1 果囊の内部	写真 2 オオイタビ

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真 2 オオイタビのサンプリング

### 6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて行われました。また本実習に際し多くの方々に丁寧な指導をして頂きました。皆様に感謝申し上げます。